

平成10年12月24日(木)

平成10年度第2回川崎市事業評価検討委員会 記 録

1 審議対象事業の抽出について

(会 長) 前回の委員会でどの事業を選ぶか、その抽出するプロセスについて議論し、私が事務局と相談することになっていた。その結果、公園事業は等々力緑地、土地区画整理事業として登戸、街並み・まちづくり総合支援事業として新川崎地区、街路事業では、丸子中山茅ヶ崎線(2事業)、河川改修事業として平瀬川、それと下水道事業の以上7事業を選ぶことで事務局と打合せを行った。  
(委員了承)

2 審議対象事業の審議について

- 等々力緑地 -

(川崎市) - 市事業説明 -。

(委 員) 先程の説明だと、昭和37年から着手と言っていたが、調書では、昭和32年から着手になっているがどうなのか。

(市 ) 32年から用地取得をはじめ、37年から施設整備に着手している。

(委 員) 事業認可をとっているところの、未買収用地はどのくらいあるのか。

(市 ) 事業区域内の未買収用地は、753㎡ある。

(委 員) 調書では、事業費1,890億円になっていて用地費がほとんどである。残っているのがほんの少しの土地なのに、まだ、残事業費が1,553億円もあるということだが、どういうことなのか。

(市 ) これは、都市計画区域全体の総事業費となっている。

(委 員) 使われたのは340億円ぐらいで、あと少し残っている土地を買って整備するのに1,500億円ぐらいかかるという意味ではないということか、感覚として、土地の取得にお金がかかるのか、それとも整備をするのにお金がかかるのか。

(市 ) 投資事業費は、これからの計画区域内の用地買収の分もある。

(委 員) 都市計画区域と事業認可の区域があって、今のお話だと残事業費のうち用地費が少なくとも、1,400億円はかかるということになる。一般的な感覚からは、高いと思うが。

(市 ) 事業区域だけでなく、計画区域内の事業も進めていきたいと考えている。

- (委員) 我々が議論するのは、事業認可を受けてる範囲なのか。
- (委員) 都市公園の場合、とくに等々力緑地のようなケースは、長い間の経緯もあるので、計画区域を含めて対象にした方がいいと思う。都市計画決定をするしないの判断は、大事だと思うし、未買収地が、14ha弱あるわけで、これに大体いくらかかるかの数字が知りたい。完成までにだいたいいくらかかるかということでの判断の材料になるし、費用対効果をみる上で関連性がある。
- (市) 事業認可だけをとらえて継続するかどうかということだけでなく、計画決定された全体の中での事業認可の範囲ということ、全体は前提だと思う。
- (委員) 5年、10年と事業採択されてからまだ未着手のものについて、必要があるのかチェックを行う。また、事業が進められていくプロセスが、透明性を確保しているかどうか、大規模な事業費を使うのが充分納得いくものなのかをチェックするということから、等々力緑地で言えば、長期化した理由、重要性、周辺との関わりというのはよくわかるが、残されている土地で、法人が福利厚生施設として持っている運動場などは、法的に使える状態ではないが広場であれば防災に役立つ。それを将来担保するために市が買って所有していくことが必要ということなのか。それでは、どの位の広さがあるのかということまで議論するのかどうか、都市計画決定について何か言えるかどうかと言う話しにもなるが、この委員会でもここまで踏み込むか。
- (委員) 今伺っている事業の範囲であれば、形式的に判断はできるが、都市計画区域までとなると大変なことで、そこまでやるのかどうか。
- (委員) 事業費の話もあるが、都市計画決定からの経緯とか、残った用地についてどうするのか、なぜ取得して整備していくのかなどについて、市民の関心も高いと思うので、説得力ある説明は必要。
- (委員) 今後、拡大していく面積が大きいということなので、拡大していく必要性を分かりやすく説明することが必要。
- (委員) 都市計画決定の内容が妥当かどうかということは、我々が、ここで判断する立場ではないと思う。事業認可の区域を前提として、事業をどう進めるのかその妥当性についてどう考えるかとすれば比較的答えは出しやすい。
- (市) 制度の主旨から言えば、今年度の国庫補助申請について、この検討委員会で評価を受けると言うことなので、やはり事業認可の区域での判断を伺うということになると思う。ただ議論とかは全体でやっていただければ。
- (委員) 都市計画の範囲の説明もするのであれば、最終形としては、こういうプランがあってそのうち未買収地がこうなっているので、本当に買わなきゃいけないというような議論が本来必要。その辺の説明がないと何をもって判断したのかとなるので、残事業費の必要性などについての説明もあるといい。
- (委員) 防災機能を引き続き高めるといえるのは、どんなイメージなのか。面を確保し

たいということだが、この場合隣が多摩川なので、普通は多摩川に避難すればいいわけで、違う意味での機能があれば是非聞きたい。また、多摩川での代替えができないのか。

- ( 市 ) 例えば、多摩川では、植えられない1 m以上の高木を植えられるので緑地広場も備え、給水拠点をもうけた防災緑地を設けるなどのことを考えている。
- ( 委員 ) 等々力緑地は、川崎市のほぼ中央にあって、防災的な拠点として考えられる。確かに河川敷があるので、当然、災害中はそちらに行く人が多いかもしれない。この公園の周辺は、住宅があり火災を遮断する意味はあまりないが、たぶん防災計画の位置づけとして、災害が一段落して一時的に集める機能、小規模的な仮設住宅の設置機能の位置づけもあるという意味で効果的な意味があり、中心でもあるので、防災機能として考えられる。
- ( 市 ) 防災倉庫、耐震性の貯水槽を備えた、一時的な避難にあつたての当面の生活の場を確保する必要がある。神戸の震災でも公園に仮設住宅があつたように、本市でもそういうオープンスペースを確保することが大事。

- 丸子中山茅ヶ崎線街路事業 -

- ( 市 ) - 市事業説明 -。
- ( 委員 ) 川崎市の状況はわかったが、横浜市側はどうなっているか。
- ( 市 ) 港北ニュータウンの関係で、整備が進められている。
- ( 委員 ) この二つの道路に関しては、大部分進捗している状況で、最後の詰めの段階で、用地交渉の問題が残り、そのあたりをどう評価するかということ。
- ( 委員 ) 道路を見ると、みんな用地買収に難航したと書いてあるが、例えば、東京、横浜の真ん中で、川崎市が特別進まない理由があるのか、ごく一般的に延びているのか、また、納得してもらえる説明というか、状況の説明とか、どのようにすれば、地権者にわかってもらい、これはやむを得ないと思うようになるか。あるいは、もう少し何か工夫すれば多くの方に理解してもらえるのか、また、どういうふうに説明していけばいいのか。
- ( 市 ) いろいろな要因はあるが、道路の重要性、必要性というものを何回でも説明し理解してもらうことがまず大事と考えている
- ( 委員 ) 例えば、10年が20年になってしまった時、単純に直接かかる事業費が高くなる。
- ( 委員 ) 時間がかかってしまう理由を大体の人はわかっている。代替地のこととかいろいろな問題はあるが、用地を確保する方法は実際どうなのか。
- ( 市 ) 確かにいろいろと斡旋はしているが条件が整わないとなかなか難しい。
- ( 委員 ) そういう状況がどの程度あつてといったことも、市民にわかってもらえれば

仕事の進捗状況に対する理解も深まるのではないか。

- ( 委 員 ) 事業費のところ、一般財源、特定財源とあるがこれはどういう意味か。
- ( 市 ) 特定財源は、国庫補助金と起債、一般財源は市費である。例えば、丸子通区間でいえば47億円あるが、一般財源が16億円、特定財源が30億円、そのうち国庫が23億円で30億円から23億円をひいた7億円が起債となっている。
- ( 委 員 ) 市費16億円は補助裏分か。用地買収の難しいのは相手の要望が変化するからで、国に要望する時にある程度確定して要求するけれども、その後、地権者の要望が変化して補助対象外の事業が必要になれば、市単独事業でやれば話がつくのでは。なぜ、市単独分をもたないのか。ある程度柔軟性がもてるのではないか。
- ( 市 ) そのような場合は、土地開発基金や土地開発公社で買ってその後、買い戻すという方法もある。
- ( 委 員 ) 川崎市の場合、そういうやり方のスタイルがあって、また別枠で市単独でもってやっているところもあるかもしれないが、どっちがいいかということは、各自治体の経験で行っているものだと思う。
- ( 委 員 ) こういうやり方の違いで、事業の進み方の違いの差がでるということはあるのか。
- ( 市 ) ないと思う。
- ( 委 員 ) だとすると事業そのものが、市民にどれだけ合意が得られるかということが、大切ではないか。
- ( 市 ) 住民の方々にその効果を理解してもらう必要がある。
- ( 委 員 ) そういう意味で今後の対応については、道路状況によっての性格の違いがあると思うので、そうしたことを明示願いたい。
- ( 委 員 ) 土地所有者だけが問題ではないと思うので、そこだけに起因するとは考えられない。反対のケースで用地買収が難航するなら、その路線をやめて他に投資するとか考えられないか。
- ( 市 ) 反対がある場合でも、事業の必要性を理解いただくなど、事業進捗を図る必要があると思う。
- ( 委 員 ) 早く事業成果をあげ効果を見せるということが必要で、あと1年位で終わるものについては、予算(市単)もつけるということも必要ではないか。

- 平瀬川河川改修事業 -

( 市 ) - 市事業説明 -。

( 委 員 ) 一般に川崎市では、これ以外のところで水害の可能性があるところはないか。また、この数十年の間に水害があったか。

- ( 市 ) 五反田川が平成 7 年に 1 m 位の床上浸水があった。
- ( 委 員 ) 上流が開発されると合流点とかその周辺に影響がでてるか。
- ( 市 ) 開発されると雨水の流下時間が速くなり集中してしまう。民間開発事業では、雨水抑制のため、敷地内に貯めてもらって流してもらう方法もある。
- ( 委 員 ) 時間雨量 50mm から 90mm に対応という説明があったが、まだ 90mm の対応をしているわけではないのか。
- ( 市 ) 具体的にすぐやるというのは難しい。その断面を確保するというより、遊水池とか調整池とかで調整するという考え方も必要。平瀬川のトンネル部については、将来を考えて、90mm で対応した構造物として国にも認めてもらい、先行投資という形で行っていく。五反田川についても同様に行っている。
- ( 委 員 ) 余裕をもってという考え方は、一般的に今までもとられてきたのか、最近そういう対応ができたのか。単純に施設能力を大きくすれば、事業費も大きくなるが。
- ( 市 ) 阪神大震災で、地下構造物が壊れ、今までは壊れないという考えもあり今後は、安全性を確保していくうえで、その技術基準を理解してもらい、それを証明していくしかない。今の数値より大きくなってしまいが、数字上証明するのはなかなか難しいが、安全性を証明できる最新の技術をよく説明していくしかない。
- ( 委 員 ) 50mm は 3 年確率か。上流は畑もあり、浸水が出るということで、3 年確率ということなら土地を買ってしまう方法もあるが、どっちが安いのか。
- ( 委 員 ) 土地が買えないからということ、そういう情報を明らかにした上でやるべきではないか。
- ( 委 員 ) 評価チェックの概要については、もっと具体的にした方がよい。全体的な計画も情報として提供するような資料にした方がよい。